

■プログラム

- ① 開会挨拶 NEDIA九州部会長 櫻井精技株式会社 代表取締役社長 櫻井 一郎氏
- ② 講演Ⅰ【基調講演】
 14:05~15:05 ◆「ひびきのの消防・防災研究」
 北九州市立大学 環境・消防技術開発センター長 加藤 尊秋氏
 ◆「災害による被害を減らすための情報管理：
 初動対応の現場から組織のマネジメントまで」
 岩手医科大学附属病院 岩手県高度救命救急センター 秋富 慎司氏
- 15:05~15:15 < 休憩 >
- ③ 講演Ⅱ【新電子デバイスアプリケーション】
 15:15~16:15 ◆「防災という視点で見た自転車の可能性」
 株式会社シマノ 取締役
 バイシクルコンポーネンツ事業部システム開発部長 豊嶋 敬氏
- 16:15~17:00 ◆「センサーフュージョンデバイスの動向」
 株式会社東芝 ヘルスケア社
 ウェルネス推進部 デジタルヘルス事業開発部 部長 宮本 浩二氏
- 17:00~17:45 ◆「広域災害の見える化、“クラスターセンサー”の開発経過報告
 ～ 現場の声（情報）を指令室へ ～」
 北九州市立大学 国際環境工学部 情報メディア工学科
 教授 中武 繁寿氏
- ④ 閉会挨拶 コラボレーションシンポジウム事務局

■お申込み

半導体・エレクトロニクス技術センターのホームページ
 [新着情報]にてご案内しております。
<http://www.ksrp.or.jp/fais/sec/>
 リンク先の申込フォームにてお申込みください。



会場：北九州学術研究都市 会議場（北九州市若松区ひびきの2-3）

ACCESS 【公共交通機関の場合】

- JR折尾駅西口バス停 → 市営バス → 学研都市ひびきの ※所要時間約15分
- JR黒崎駅バス停 → 市営バス・西鉄バス → 学研都市ひびきの ※所要時間約30分
- 北九州空港バス停 → エアポートバス → 学研都市ひびきの ※所要時間約70分

【車をご利用の場合】

- 北九州都市高速道路 黒崎出入口 ※北九州都市高速道路 黒崎出入口からの所要時間約20分
- 小倉都心 → 北九州都市高速道路 東田出入口 → 黒崎バイパス 皇后崎ランプ → 学研都市ひびきの ※所要時間小倉都心から約30分

〈お問合せ先〉公益財団法人北九州産業学術推進機構 半導体・エレクトロニクス技術センター
 TEL 093-695-3007 <http://www.ksrp.or.jp/fais/sec/>

こんな事もできる！最新電子デバイスアプリケーション

「防災・人命救助・生体センサー」分野への応用

2014年10月31日(金)

講演 14時00分 ~ 17時50分

会場 北九州学術研究都市 会議場

参加費無料



- 〈主催〉一般社団法人 日本電子デバイス産業協会 (NEDIA)
 北九州市立大学環境技術研究所 環境・消防技術開発センター
 公益財団法人 北九州産業学術推進機構 (ひびきのLEDアプリケーション創出協議会、ひびきの半導体アカデミー)
- 〈共催〉九州半導体・エレクトロニクスイノベーション協議会 (SIIQ)
- 〈後援〉経済産業省九州経済産業局 (予定) / 国土交通省九州地方整備局 (予定) / 北九州市 / リスク対策.com (新建新聞社)

「防災・人命救助・生体センサー」分野への応用

近年、国内の防災・安全意識が高まってきた。一方、センサーをはじめとした電子デバイスの研究開発が進み、今まで考えられなかった分野への、画期的なアプリケーションが発達して来た。北九州学術研究都市では電子デバイスの応用として6分野を掲げているが、今回、電子デバイス技術を駆使して「防災安全安心・人命救助」分野に応用できる最前線情報を紹介する。

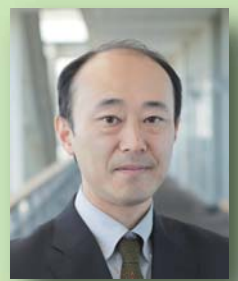


**防災・安全・安心
人命救助**



講演 I 【基調講演】

◆「ひびきのの消防・防災研究」
北九州市立大学 環境・消防技術開発センター長 加藤 尊秋氏



<講演内容>
北九州学術研究都市および北九州市立大学で行われている特徴的な消防・防災研究、また、産官学の連携による実用化の取り組みについて最新の状況を説明する。

<プロフィール>
防災政策や環境政策の効果を計測し可視化することが専門。2013年度より北九州市立大学環境技術研究所 環境・消防技術開発センター長として活動。

◆「災害による被害を減らすための情報管理：
初動対応の現場から組織のマネジメントまで」
岩手医科大学附属病院 岩手県高度救命救急センター
医師 秋富 慎司氏



<講演内容>
災害対応で被害を減らすには、現場での救助活動からさまざまな組織を連携させた後方支援まで、情報を組織的に活用する必要がある。このための考え方の筋道について、世界的な流れと経験を踏まえて語る。

<プロフィール>
JR福知山線脱線事故での医療活動をはじめ、東日本大震災における岩手県災害対策本部での医療班指揮など現場から組織的な後方支援まで経験豊富な災害医療と危機管理の専門家。



講演 II 【新電子デバイスアプリケーション】

1.「防災という視点で見た自転車の可能性」
株式会社シマノ 取締役
バイシクルコンポーネンツ事業部
システム開発部長 豊嶋 敬氏

<講演内容>
東日本大震災では被災地から遠く離れた東京でも帰宅時の足として自転車が多く用いられたことが報じられていた。最近一般的には馴染みがないが、高級な自転車には多くの電子部品が搭載されつつある。ご報告させていただき今回は防災という視点でこうした電子化された自転車が実際の被災現場において役に立てる場面があるのかどうか、その将来の可能性について考えるための情報を提供させていただく。



<プロフィール>
1986年9月 - 2007年4月
オリンパス光学工業株式会社（現オリンパス株式会社）に勤務。光磁気ディスク装置の開発、自社ブランド商品の立上げを担当後、デジタルカメラの開発、購買、海外製造業務を担当。デジタルカメラ用光学レンズユニットの外販事業の立上げも行う。2007年5月 株式会社シマノに入社、翌2008年システム開発部を立上げ、自転車部品の電子化を担当し現在に至る。



2.「センサーフュージョンデバイスの動向」
株式会社東芝 ヘルスケア社
ウェルネス推進部デジタルヘルス事業開発部 部長 宮本 浩二氏

<講演内容>
センサーフュージョンデバイスは、単純にセンシングしたデータをクラウドへ流すのではなく、信号処理、画像認識等、その間で処理を行うことで機器に更なる価値を与え、データ通信の負荷も減らす。「楽天キレイ℃ナビ」向け体温計などの実例でそれらを紹介する。



<プロフィール>
入社以来、半導体技術開発に携わり、ロジックLSI製品全般のデバイス・プロセスプラットフォーム開発を担当。2002年-2006年 IBM(米Fishkill)の研究所に勤務、Cellプロセッサ開発デバイスマネージャー。2013年に楽天と共同で女性向け新美容・健康サービス「楽天キレイ℃ナビ」を立ち上げた。2014年より現職。

3.「広域災害の見える化、“クラスターセンサー”の開発経過報告
～ 現場の声(情報)を指令室へ ～」
北九州市立大学 国際環境工学部 情報メディア工学科
教授 中武 繁寿氏



<講演内容>
広域火災における安全な消防活動を支援するために、散布型センサーネットワーク(クラスターセンサー)の活用を提案する。講演では、ディスプレイ酸素センサーとZigbeeモジュールとLEDを搭載した小型センサーボードと、センサーネットワークと可視光通信を組み合わせた酸素濃度の分布を算出する仕組みについて紹介し、現段階における試作機の仕様や実験室での測定結果について報告し、将来性を議論する。

<プロフィール>
集積回路やその設計システムに利用されるアルゴリズムに関する研究を専門とし、近年は集積回路の応用として、医療や防災向けの超小型センサーシステム集積化技術に関する研究を推進。